

令和7年度 始良・伊佐地区中学校道德教育研修会

(会場校) 霧島市立日当山中学校

(令和7年7月1日)

1 日当山中学校道德科のテーマ

考え、議論する道德の授業づくり

自分ごととして捉える道德の授業づくり

2 全体会

全体会では、日当山中学校でこれまで取り組んできた共通実践の内容と研究授業の授業説明がありました。共通実践事項では、生徒が考え、議論するための手立てとして、良質な中心発問の設定に関して、考えさせたい価値について抽象的に問うこと、また、生徒が自分ごととして捉えるための手立てとして、①これまでの自分を振り返って、②これからの生活に活かそうな事、③友達の考えでなるほどと思ったこと、④考えが変わったこと、という振り返りの4つの観点について説明がありました。



【全体会の様子】

3 公開授業

(1) 第2学年 教材名「ゴール」

2年生では、上岡洋輔教諭が「ゴール」という教材を用いて授業を行いました。

授業では、「友情を深めるために大切なことは何だろう」という学習問題をもとに真の友情についてペアやグループでの対話を通して、生徒は自分の学びを深めていました。また、この時間の学びを振り返りシートに記入させ、自分の考えや新たな気づきをまとめていました。



【第2学年の授業の様子】

(2) 第3学年 教材名「語らいー私たちが出会う新しい私たち」

3年生では、入田大将教諭が「語らいー私たちが出会う新しい私たち」という教材を用いて授業を行いました。

授業では、「人間関係を深めるためにはどのようなことが大切だろうか」という学習問題で行いました。生徒は、人間関係を深めるために大切なことについてグループで意見交換を行い、自分と他者の考えを比較しながら自分の考えを再考したり、ロイロノートのシンキングツールを用いて、道德的価値について、多面的・多角的に考えたりしました。まとめでは、振り返りシートに観点を選んで記述しました。



【第3学年の授業の様子】

4 分科会

分科会では、2年生と3年生に分かれて、授業研究・研究協議を行いました。

授業研究では、事前に示された目指す生徒の姿である「考え、議論する姿」、「自分ごととして捉える姿」に着目して授業中の生徒の姿を基に意見交換を行いました。

研究協議では、地区及び日当山中学校の研究主題である『「考え、議論する道徳」に向けた授業の在り方』をテーマに、各学校の取組や授業における工夫等について、グループで意見交換を行いました。



【授業研究・研究協議の様子】

授業研究・研究協議で出された意見の主な内容及び研修会を終えての参加者からの感想は、以下のとおりです。

(1) 2年生

【研修会を終えての参加者の感想】

- 生徒が緊張しながらも自分の考えを表現しようとする姿勢が、日頃の学級づくりの成果として捉えられていました。
- 教師の発問やICTの活用によって、生徒が自分の考えを深めたり、他者の意見を受けて再考したりする機会が設けられていました。
- 振り返りシートを活用し、「自分の日常も含めて振り返れる手立て」が工夫されていたことで、生徒が自分ごととして価値を考える姿が見えました。
- テーマに沿って展開されている授業を見せていただきました。生徒たちが素直に語り合っている空気感が伝わってくる学級でした。
- 中学生たちに本音で議論させる難しさを感じながらも、いかにして教師側の発問で揺さぶるかを考えさせられました。ありがとうございました。
- 道徳の授業を参観して、自分とのかかわりをもてるような発問を学ぶことができました。

(2) 3年生

【研修会を終えての参加者の感想】

- 思考ツールやテキストマイニングの活用により、生徒が自分の考えを言語化しやすくなる工夫がなされていました。
- 生徒が落ち着いて授業に臨み、真剣に考える姿勢を見せていたことが、日頃の積み重ねの成果として表れていました。
- 実態に即した発問や振り返りの時間を通して、生徒は授業内容を自分ごととして捉え、日常生活に照らして考える姿勢を見せていました。
- 自分にとって課題である「考え、議論する生徒」について実践されており参考になりました。工夫次第で、道徳だけではなく、他活動においても応用できると思います。
- 授業を通しての道徳教育の積み重ねがよく分かり、生徒たちが真剣に臨んでいる姿が印象的でした。
- 研究授業は、どの生徒も積極的に参加しており、日頃からの担任とのよい関係がこの1時間の授業から伝わってきました。